

ひと意見

いま、有機農業は変わりつつある。かつて一部の人たちから始まった運動だった。それから半世紀ほど経った2022年、有機農業を長らく傍流と位置付けていた国が方針を改め、政策（みどりの食料システム戦略）の中で拡大目標を明記した。

しかし、有機農業を広げるための道のりは険しい。課題の一つは、情報集積が

渡邊 春菜

(株)坂ノ途中 研究員



進んでいないことだ。「本当に環境に良いのか？」「有機農業では農家は食べ

ていけないのか？」公表された情報が1カ所にまとめられていないし、場合によっては重要な情報が公表されることなく、農家の頭の中にある。

このような状況を改善するために私たちが取り組んだのが、民間での「有機農業白書」の作成だ。

23年に発表した『有機農業白書 vol.0』有機農業を広げる妥当性と必要な支援〜』では、日本の文脈においては、有機農業の拡大が環境負荷低減の観点からは望ましいことを示すことができた。

翌年の『有機農業白書 vol.1』現状把握から将来展望へ〜』では、調査により得られた全国の有機農家（410戸）のデータを用いて、有機農業面積

や農家の経営実態（売上、所得、販路等）を示す。これらによって、就農希望者が就農後の生活をあらかじめ展望できるように、め展望を持って就農できるよ

有機農業拡大へ民間白書で展望を描く

さまざまな地域で白書を作成し、これを触媒として有機農業を広げていきたい。